

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

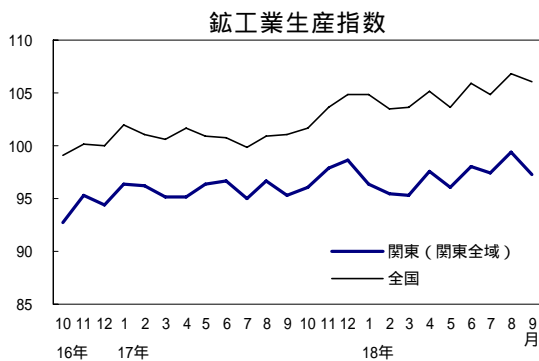
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 8 月）	今回（平成 18 年 11 月）	
住宅建設	増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。（関東全域）

一般機械は、印刷機械は好調であったものの、フラットパネル・ディスプレイ製造装置が伸び悩んだため、おおむね横ばいで推移している。化学は、フェノール・酸化プロピレンなどの樹脂原料が好調であったため、増加している。輸送機械は、乗用車ボディの製造が減少したものの、鋼船や軽自動車等は引き続き好調であったため、おおむね横ばいで推移している。情報通信機械は、固定通信装置等は増加したものの、PHS、携帯電話等が伸び悩んだため、おおむね横ばいで推移している。電気機械は、生産拠点を海外に移動している半導体IC測定器が減少しているが、自動車向けのモーターに使用するアルカリ蓄電池が好調であったため、おおむね横ばいとなった。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年9月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

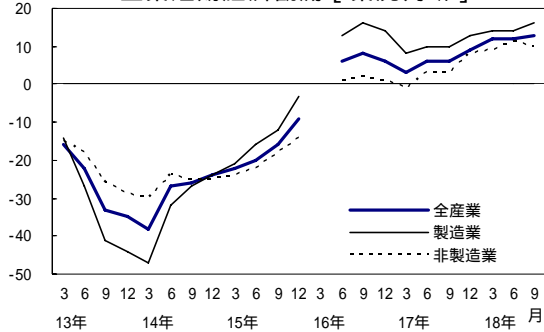
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	13.8	6.1	0.5	4.3	2.1
化学	13.7	2.3	4.1	2.7	3.1
輸送機械	11.3	2.0	1.0	1.5	8.1
情報通信機械	8.6	10.0	0.1	4.8	9.2
電気機械	7.9	0.3	0.1	0.8	10.6
鉱工業	100.0	1.7	0.7	0.8	1.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 7~9月期の化学の生産、出荷は、7月、8月確報値の平均より算出。在庫は、8月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

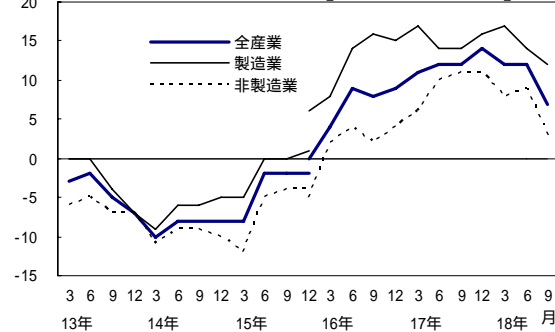
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
関東全域(新潟県を含む)

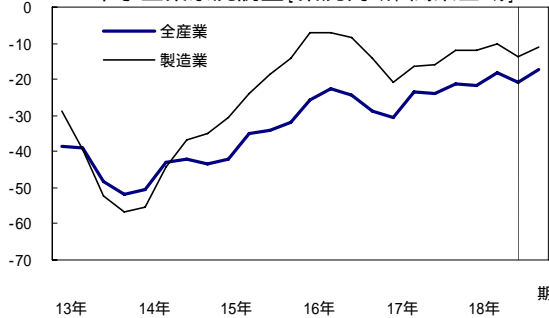
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「オフィス需要は相変わらずおう盛で、賃料相場も上昇している。割安感のあるテナントの賃料の改定交渉を始めているが、特に強い抵抗もなく受け入れられている(不動産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

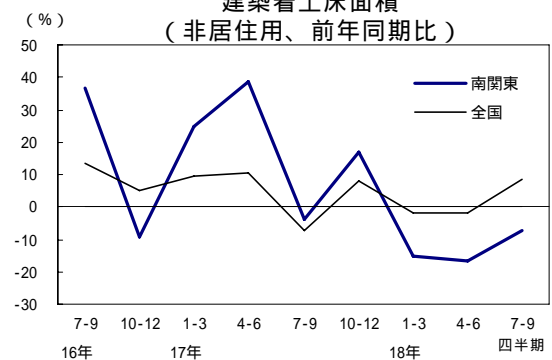
企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	28.1	16.0(9.3)
製造業	30.5	22.2(12.7)
非製造業	20.2	1.0(0.3)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

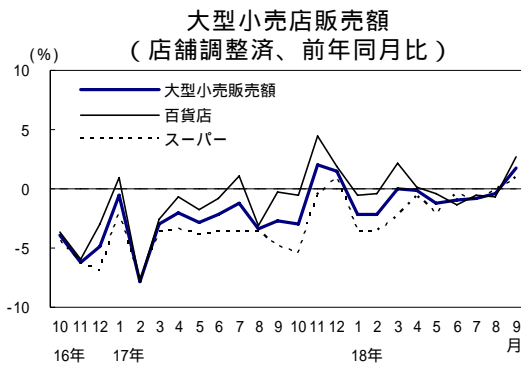
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、上旬にクリアランスセール効果で衣料品全般に動きがみられたものの、中旬以降の天候不順により来店客数が減少し、身の回り品や飲食品、家庭用品などが軒並み低迷したことにより、前年を下回った。8月は、化粧品等が好調に推移したものの、下旬に気温が高めに推移したことから、秋物衣料が伸び悩み、前年を下回った。9月は、中旬に低温で推移したことから、コート類を中心に衣料品が好調であったことに加え、ハンドバック、ロングブーツ等の身の回り品が全般的に好調であったこと等により、5か月ぶりに前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の10月の売上高は前年同月比1.3%減となっている。

スーパーは、天候不順による生鮮野菜の高騰から、主力の飲食品に伸びがみられたものの、衣料品や身の回り品が伸び悩んだことから、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

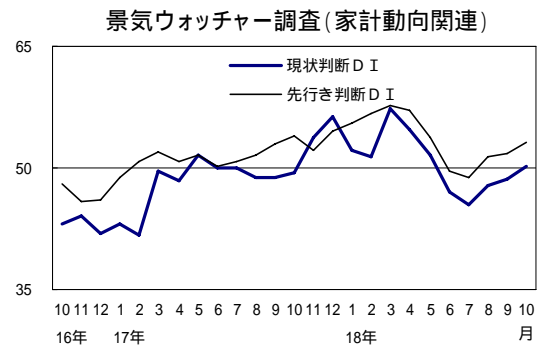
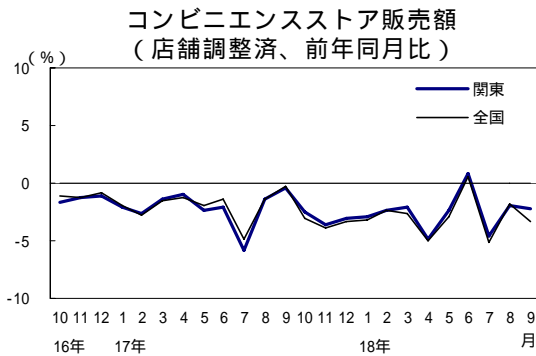
「午前中には客はまるでなく、午後になり業務店、あるいは得意先からの電話受注が数件ある。退社時、帰途に、自動販売機代わりに缶ビールやチューハイ等を1本買って行く客が多数いる。その他固定客はまばらである(一般小売店[酒類])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.3	1.4	0.8	0.1
百貨店	1.9	0.4	0.5	0.4
スーパー	1.5	3.2	1.0	0.1
コンビニ	3.0	2.4	2.2	3.0
景気ウォッチャー	53.2	53.6	51.1	47.3

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。18年7-9月期は速報値。コンビニは関東全域

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、分譲が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

